

TOKYO SEITOKU

July.2026

NOW

vol.
60

東京成徳学園の“今”を発信する広報誌

100th
TOKYO SEITOKU
Since 1926

特集

学園創立100周年記念

ALL TOKYO SEITOKU MESSAGE 100

地域をフィールドに、学びが動き出す

— U-KISS・O-KISS 協働プロジェクト —

TALK SESSION 中高一貫部×高等部

東京成徳の中等教育 — 100年を超え、進化する学び —



つながる学び、ひろがる未来。

学校法人 東京成徳学園

TOKYO SEITOKU



徳を成す教育を、次の100年へ



東京成徳学園
副理事長
木内 雄太

本学園は本年、創立100周年という大きな節目を迎え、来たる11月26日に記念式典を挙行いたします。1926年、王子高等女学校として歩みを始めて以来、東京成徳学園は「徳を成す」教育を建学の精神として受け継いでまいりました。女子教育が広がり、これからの

日本を担う人材の育成が求められた時代に、本学園は、人として善く生きる教育を出発点としました。

100年を経た今、私はこの「徳を成す」という考え方が、これからの時代において、改めて大きな意味を持つと感じています。社会の変化はますます速くなり、AIやデジタル技術の進展、グローバル化、価値観の多様化によって、私たち一人ひとりの行動が、身近な人間関係だけでなく、地域、国、世界、さらには地球全体にまで影響を及ぼす時代になっています。

そのような時代に、子どもたち・生徒・学生に本当に必要な力とは何でしょうか。もちろん、知識や技能、進学や就職に向けた努力も大切です。しかし、それだけで十分なののでしょうか。どれほど高い能力を持っていても、それを何のために、誰のために用いるのかという軸がなけれ

ば、その力は社会をよりよくするものにはなりません。人間がこれまで以上に大きな力を持ち始めた時代だからこそ、最後に問われるのは、やはり人としてのあり方であり、心なのだと思います。

現代は、情報にあふれた時代です。SNSを通じて、私たちは日々、多くの人の華やかな姿や成果を目にします。また、効率や損得が強く意識され、「人より損をしたくない」という感覚にとらわれやすい時代でもあります。そうした中で、私たちは知らず知らずのうちに、社会や他者にどう貢献するかよりも、自分が損をしないことに心を奪われてはいないでしょうか。

本学園の理事長は、日頃から学生・生徒に「品格のある行動」を大切にしてほしいと伝えておりますが、品格とは、自分で声高に語るものではありません。日々の行動の積み重ねを通じて、周囲の人が感じ取るものです。では、その品格ある行動はどこから生まれるのでしょうか。それは、他者との比較ではなく、自分自身と向き合い、「この行動は善いと言えるのか」と問い続ける内なる軸から生まれるのだと思います。

そして、その軸は、頭で理解するだけでは育ちません。実際に行動し、迷い、失敗し、それでももう一度立ち上がる経験の中で育っていきます。だからこそ、これからの教育で大切にしたいのは、次代を担う若者たちが本気で挑み、本気で失敗する経験です。



2026年3月に開催された「第17回 全国中学校高等学校女子ラクロス選手権大会」で優勝を飾った、東京成徳大学中学・高等学校女子ラクロス部

本気を出すことは、時に怖いことです。結果が突きつけられるからです。傷つくことを避けるために、あえて本気にならないことで自分を守ることできるかもしれません。しかし、本気で挑まなければ、自分の弱さにも、仲間の支えにも、次に向かう力にも出会うことはできません。失敗を避けることで、成長の機会まで失われてしまうのです。

もちろん、子どもたちに無責任な失敗を求めるわけではありません。命や尊厳に関わる重大な失敗は、大人が未然に防がなければなりません。そのうえで、子どもたちが、今の自分にできる最善を尽くし、うまくいかなかった経験から学び、再び歩み出すことを、私たちは本気で肯定できる教育機関でありたいと思います。

これからの時代は、正解のない時代だと言われます。だからこそ学校も、正解を与える場であるより、子どもたちとともに問い続ける場でなければなりません。私たちがすべてを教え、育てるのではなく、仲間や社会、多様な経験との出会いの中で、一人ひとりが自ら考え、挑み、善い生き方を見出していく。その環境と土台を整えることこそ、学校の大切な役割だと考えています。

創立100周年は、これまでの歩みに感謝するだけの節目ではありません。「徳を成す」教育を次の100年へ受け継ぎ、今の時代にふさわしく深める機会です。東京成徳学園は、知性と心を育て、品格を持って社会に貢献する人を育む学園であり続けたいと考えています。

TOKYO SEITOKU

NOW

「TOKYO SEITOKU NOW」は
1年に2回、東京成徳学園の情報を
お届けする総合広報誌です。

01 巻頭言

03 特集1

学園創立100周年記念

ALL TOKYO SEITOKU MESSAGE 100

05 特集2

地域をフィールドに、学びが動き出す

— U-KISS・O-KISS 協働プロジェクト —

09 特集3

TALK SESSION 中高一貫部×高等部

東京成徳の中等教育

— 100年を超え、進化する学び —

13 TOPICS

13 就任のごあいさつ／法人本部

14 国際学部／子ども学部／経営学部

15 応用心理学部／大学院

16 短期大学／中学・高等学校

17 深谷中学・高等学校／幼稚園

18 クラブ活動報告

19 進路(進学・就職)

21 学園の動き

23 学園の動き／NEWS

読者アンケートのお願い

24 学園の動き

ブランド・ステートメント

25 学園の動き

26 先生に聞く。

学園創立100周年記念事業

27 お問い合わせ先

学園後援会のご案内

学園のシンボル・マーク



TOKYO SEITOKU

イエローは「活力」と「勇気」を表し、3本の柱は学生・生徒・園児、教職員、同窓生を象徴しています。ブルーは「理想」と「若さ」を表し、5本の柱は5つの教育目標を象徴しています。そして、8本の柱が一体となり、東京成徳学園とその学園に集う人々のヒューマニティーを作り上げる姿を表現しています。

【特集1】



学園創立100周年記念

ALL TOKYO SEITOKU MESSAGE 100

2026年の学園創立100周年を記念して、創立100周年特設サイトでは、たくさんの学園関係者の皆さまから頂戴した「100周年のお祝いメッセージ」と「100にまつわるエピソード」を掲載しています。

ぜひ特設サイトで、学園に関わるさまざまな「オール東京成徳」の皆さんのメッセージをご覧ください、100周年祝賀の気運を高めていただければ幸いです。

Check!



メッセージの全文は
創立100周年
特設サイトで
ご覧いただけます

新しい学びとの出会いが
社会の見え方を変える

国際学部 国際学科 2025年度卒業
新島 由唯さん

学外での経験が
将来の選択肢を広げてくれる

応用心理学部 健康・スポーツ心理学科 2024年度卒業
金原 佑羽さん / 旅行代理店

学園の歴史の100ページ目に
立ち会えることへの喜び

応用心理学部 臨床心理学科 2023年度入学
大濱 琉太郎さん

東京成徳の教えとともに
踏み出す新たな一歩

応用心理学部 臨床心理学科 2024年度卒業
原山 凜さん / IT企業

昭和100年の時代変遷と、
変化を恐れぬ前進への決意

東京成徳大学 学長
吉田 富二雄 先生

幅広い選択肢から、自分に合う
ワクワクした将来を見つけられる！

子ども学部 子ども学科 2023年度入学
柴田 来楽さん

東京成徳学園で過ごした、
充実した10年間に感謝！

応用心理学部 健康・スポーツ心理学科 2024年度卒業
藤田 結愛さん

社会福祉の現場で生きる
健康・スポーツ心理学の学び

応用心理学部 健康・スポーツ心理学科 2012年度卒業
金子 琢哉さん / 地方公共団体 行政職

一人ひとりの個性を伸ばし
主体性と自信を育む保育士へ

短期大学 幼児教育科 2024年度卒業
西川 健太さん

一射一射を重ねる百射の如く
次の100年を歩む決意

東京成徳短期大学 学長
東京成徳大学中学・高等学校 校長
成徳幼稚園 園長 木内 秀樹 先生



先輩方の背中を追いかけて
次は自分が目標となる存在へ

短期大学 幼児教育科 2025年度卒業
北口 晴奏さん



創作の楽しさと教育の魅力を伝え
子どもたちの未来に貢献したい

子ども学部 子ども学科 2009年度卒業
吉田 亜沙美さん / エディトリアルデザイナー



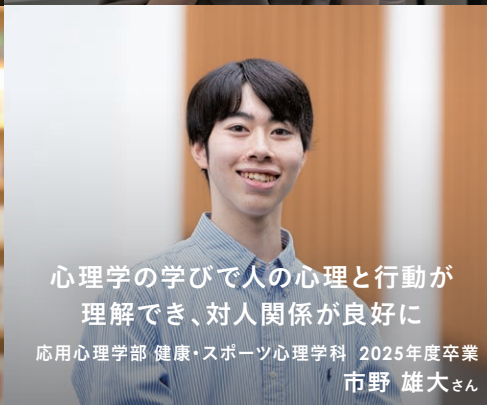
自律的に挑戦する学生たちの姿に
エネルギーをもらう

応用心理学部 健康・スポーツ心理学科 准教授
関谷 大輝先生



福祉と芸術をつなぎ
地域文化振興に貢献したい

子ども学部 子ども学科 2009年度卒業
菅野 勇作さん / 東京都北区 公共施設



心理学の学びで人の心理と行動が
理解でき、対人関係が良好に

応用心理学部 健康・スポーツ心理学科 2025年度卒業
市野 雄大さん



学園が持つ輝きがこの先永遠に
続くよう、一層の勇気を持って

東京成徳大学深谷中学・高等学校 前校長
石川 薫先生



八千代キャンパスで
広がった友情と学びの輪

応用心理学部 健康・スポーツ心理学科 2023年度卒業
沼田 大幸さん / 公益社団法人スポーツ指導員



苦手分野にも興味を持つように。
知識と経験に満ちた4年間

経営学部 経営学科 2024年度卒業
池澤 遥奈さん



これまでの歴史と次世代への
希望をつなぐ、100周年の禪

子ども学部 子ども学科 教授
石黒 万里子先生



一歩踏み出す勇気で、
新しい自分に挑戦していきたい

経営学部 経営学科 2025年度卒業
中山 愛理さん



次の100年へ、人と人がつながり
挑戦が生まれていく

短期大学 幼児教育科 准教授
津久井 康明先生



児童心理司という夢に向かって
目的意識を持ち挑戦し続ける

応用心理学部 臨床心理学科 2023年度入学
上村 瑛美さん



伝統を大切に、未来を担う
学生たちと学び、歩んでいく

国際学部 国際学科 教授
水谷 清佳先生



親身な先生方、仲間たちと、
切磋琢磨できる環境が魅力

子ども学部 子ども学科 2024年度卒業
宇佐見 夢果さん



徳を成し、他者から信頼される
人の育成を目指して

経営学部 経営学科 教授
武井 孝介先生

“ 特集 2 地域をフィールドに、学びが動き出す ”

— U-KISS・O-KISS協働プロジェクト —

U-KISS 北区とゆかりのある大学の学生による
北区シティブランディング大学生協力員

O-KISS 北区若手職員で構成する
北区シティブランディング戦略推進員

田中 良香さん

東京家政大学
栄養学部 管理栄養学科 2年

川島 瑞輝さん

東京成徳大学
国際学部 国際学科 4年

三浦 華さん

北区役所
総務部 職員課 人事係 ※プロジェクト時
(現在は東京都デジタルサービス局派遣)

渡邊 夏海さん

北区役所
政策経営部 広報課 主事

飯塚 裕二郎さん

北区役所
国保年金課 国保資格係 主事

活動を共にしたメンバーは計6名。今回は日程の都合により、1名(東京家政大生)は取材への参加ができませんでした。

東京都北区ではシティブランディング戦略の一環として、**北区にゆかりのある大学※の大学生協力員(U-KISS)**と**北区の若手職員(O-KISS)**が協働して地域の魅力を発信するプロジェクトを2011年度から実施しています。2025年度の活動では学生と職員がチームを組み、北区を舞台にしたショートフィルムを制作。東京成徳大学からも2名の学生が参加しました。

今回は参加学生の内、国際学部の川島瑞輝さん、同チームで活動した東京家政大生と北区職員の方にお集まりいただき、活動の舞台裏や想いを語っていただきました。

—— U-KISS・O-KISSによるシティブランディング推進事業とは、どのような取り組みなのでしょう。

三浦 北区の学生と若手職員が力を合わせ、北区の魅力を東京都内外、さらには世界へ向けて発信していくプロジェクトです。若い世代ならではの視点で地域の魅力を再発見し、その価値や認知度を高めていくことを目的と

しています。

渡邊 毎年テーマを変えながら、地域と大学が連携したさまざまな活動を展開しています。2025年度は「**北区を舞台にしたショートフィルムの制作**」をテーマに、学生と職員でチームを組み、北区の魅力を盛り込んだ映像制作に挑戦しました。制作を通じて双方の新たな視点や発想に触れながら、

よりよい連携を深めていくことを目指し、職員8名・学生10名が3チームに分かれて、それぞれオリジナルのショートフィルム制作に取り組みました。

—— 皆さんが所属したチーム“B班”は、タイトル「王子の狐の恩返し」のショートフィルムを制作。東京成徳大学の川島さんが主演・脚本を担当しています。

川島 大学2年次に経験した海外留学や、ゼミで近現代文学を研究したことをきっかけに、自分の感性を生かした表現や映像制作に興味を持ちました。また、帰国後にさまざまなボランティアに参加する中で、自ら行動していくことに充実感を覚え、もっと学生時代

※北区と包括協定を結ぶ東京成徳大学、東京家政大学、東洋大学など

Check!

にしかできない経験を積み重ねたいと思って参加しました。

田中 私は東京家政大学に所属しており、地域活性化の取り組みに興味があったので参加しました。B班は私を含めた学生3名と、北区職員の方が3名の6名体制のチームで、最初は緊張もあったのですが、職員の皆さんが気さくに話しかけてくださったおかげで、川島さんや同じ東京家政大学の先輩である矢口夢さんとも、すぐに打ち解けることができました。

飯塚 役割分担としては、自分がスケジュール管理や取りまとめなどの裏方を担当し、三浦さんはムードメーカーとして全体を引っ張り、動画編集が得意な渡邊さんは細部までこだわりながら編集を進めてくれました。川島くんはB班のリーダーとして、脚本から編集、主演まで幅広く活躍してくれましたし、矢口さんはテーマに沿った役作りを丁寧に追求し、田中さんは芸術性の高いカメラマンとして力を発揮してくれました。学生が積極的に参加してくれたこともあり、チームの雰囲気がとても良かったです。全員が積極的に活動に関わり、最後まで映像をよりよくしようと試行錯誤していました。



B班に参加した3名の学生メンバー。右から、ストーリーの企画・脚本と主演を担当し、リーダーを務めた川島さん。物語のキーマンとなるキャラクターで作品を彩った矢口さん。当時1年生ながら、カメラマンと編集を務め上げた田中さん。

——約9か月間にわたるショートフィルム制作でしたが、活動はどのようにスタートしたのでしょうか。

川島 まずは、ショートフィルムの題材とテーマを探すため、全員で区内各所を散策しました。その後、外部の映画監督から直接講義を受け、ショートフィルム制作のノウハウを学びました。

B班『王子の狐の恩返し』

B班が手がけたショートフィルム作品。就活中の主人公が不思議な少女との出会いを通して、街の魅力を再発見していくストーリー。物語性の高い構成とナチュラルな演技が印象的な作品。



作品はQRから >>
ご覧いただけます



田中 北区にはかつて狐が棲んでいたという伝説がある王子稲荷神社があり、大晦日に各地から狐が集まったなどの伝承もあります。そういった背景から「狐の恩返し」というテーマを決めて、北区の飛鳥山公園、浮間公園、王子稲荷神社を撮影スポットに選びました。

三浦 学生に主演を担当してもらいましたが、演技指導を受けたことがあるの?というほど自然な演技だったことに驚かされました。とくに川島くんは脚本も担当してくれて、細部にまで一生懸命こだわり続ける姿勢に本当に助けられました。

渡邊 そうですね。川島くんは最初のアイデア出しから発想力が豊かで、矢口さんと2人でストーリーに沿った素晴らしい演技をしてくれました。田中さんは当時まだ1年生で全てが未経験中、カメラマンとして重いカメラを使いこなして映像の撮影と編集も担当してくれました。

——制作を進める中で、難しさを感じた点はありましたか?

川島 実は、一度まとめた脚本をもとに

映像を作ってみたところ、伝えたいメッセージがうまく表現できていないと実感して。他のチームは順調に撮影をして編集を進めていく中で、僕たちのチームは全員で話し合って「脚本を1から練り直して再度撮影をしよう」と決めました。

田中 大変でしたが、みんなで時間をかけて議論したおかげで、伝えたい思いと構成をしっかりと固め直すことができました。それに、撮影している時間がずっと楽しくて。どんな演出でどの画角から撮ると良いか、みんなで話し合いながらひとつの作品を作り上げていく喜びがありました。



笑ってしまっただけで撮影が止まってしまうこともあったほど、アットホームで常に笑顔が絶えなかった撮影現場。

飯塚 制作は基本的に週1日、平日の夕方を活用して進めていました。時にはみんなで軽食を囲みながらコミュ





ニケーションを深め、和気あいあいと撮影を進められたと思います。活動を通じてメンバー同士の距離が縮まる一方で、作品のために妥協せず互いの意見を伝え合える空気もしっかりあって、非常に良いチームワークが築けていました。

—— 成果報告会として特別試写会と発表がありました。達成感や手応えはいかがでしたか。

渡邊 周囲の方や上司から「B班の映像、良かったよ」と声をかけていただくことが多く、みんなで最後までこだわり抜いたことが報われた感覚がありました。脚本が途中で変わるなど紆余曲折あったので、完成してほっとした気持ちが大きかったです。全員で納得いくまでこだわり続けたからこそ、良い映像に仕上がったと自負しています。

飯塚 いかにも区の紹介動画という印象にならないよう意識して制作したことで、北区の魅力的な風景や街の雰囲気や自然な形で引き出せた点は、特に評価できるところだと思っています。



東京家政大学で開催された特別試写会(成果報告会)で発表をするB班メンバー。発表後は講師を務めた映画監督こさざりょう氏、やまだ加奈子北区長から講評が行われた。

川島 演技は小学校の学芸会以来だったので、表情や演技の作り方など戸惑うことも多かったのですが、どうにか形になって良かったです。何より、自分が考案した脚本が映像になっていく過程にワクワクして、完成した時には大きな達成感がありました。区の職員の方や大学関係者の方に脚本を褒めていただけたことも、とても嬉しかったですね。

田中 それぞれ分担して編集していた映像を見せ合ったとき、自分以外のメンバーの切り取り方や画角の工夫などに気付くことも多くて。ひとつの作品をチームで創り上げる面白さを改めて実感した瞬間でした。

—— この作品は、国際短編映画祭への出品が決まっています。

三浦 「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア2026」は、アジア発の新しい映像文化の発信を目的とした映画祭で、世界から数多くのショートフィルムが集まります。北区のシティブランディングの取り組みや動画などの成果物を、区内の関係者や住民の方はもちろん、より広く発信す

る手段を考えていくことも重要だと思うので、今回のショートフィルムの国際短編映画祭出品や私たちの活動が、その一助となれば嬉しいです。

—— 今回のプロジェクトでの活動を通して、学びや成長を実感した瞬間はありましたか。

川島 ひとつの作品をつくり上げた経験や、多くの方との協働の中で発見したこと、大勢の前で発表したことなど、どれも自分の中でとても大きな財産になりました。広告や映像にもより興味がわきましたし、将来は「自分の暮らす地域に貢献していきたい」と考えるようになりました。

田中 私はもともと消極的な性格でしたが、みんなでひとつの作品をつくる中で、人と関わることの大切さを実感しました。今では大学のグループ課題でも、チームに貢献できるよう積極的に行動するようになったと思います。また、この活動を通して動画編集に対する興味も深まり、現在は大学のSNSを通じた広報活動にも参加しています。将来は管理栄養士を目指していますが、北区職員の皆さんの姿を見



公園や文化財などのロケーションで撮影をしていく中で、自分たちが通う大学のある「北区」という地域の魅力を再発見することにもつながっている。

A班『#北区、未来が見えるまち』

北区十条エリアを舞台に、地域の魅力を描きながらホラー要素を取り入れた作品。応用心理学部 健康・スポーツ心理学科 3年の増田 千弘さんがプロデューサーとして参加している。

作品はQRからご覧いただけます >>



C班『栄一 is back』

渋沢栄一が現代に現れるという設定で、歴史と現在がつながるストーリー。

作品はQRからご覧いただけます >>



て公務員の仕事にも関心を持つようになり、将来の選択肢が広がったと感じています。

—— 学生が地域と関わることの意義について、どのようにお考えですか。

飯塚 川島くんや田中さんが地域に目を向けてくれたことが嬉しいです、北区を好きになってもらうことや定住のきっかけになれば、この活動は大きな意義があります。ただ、それ以上に「地域と関わりながら何かを知っていくこと」自体の面白さを感じてもらえれば、今後の人生にも良い影響を与えられると考えています。

渡邊 新しいことへの挑戦は、自分の可能性を広げてくれます。この活動を通じて、学生の皆さんが北区や地域に関心を持ち、その魅力を身近に感じてもらえていたら嬉しく思います。

三浦 撮影に夢中になる学生たちの姿

を見て、物事を純粹に楽しむ気持ちですが、その場の雰囲気や映像作品をよりよいものにしていると感じました。その姿勢は私自身も見習いたいと思ったほどです。また、若い世代の視点で地域について考えることは非常に大切なことだと思います。地域の魅力や課題を次世代へとつないでいくためにも、U-KISS・O-KISSの協働プロジェクトが今後も継続していくことを期待しています。

—— U-KISS・O-KISS協働プロジェクトへの参加を考えている学生へ、皆さんからメッセージをお願いします。

三浦 地域活性化や情報発信などに少しでも興味があれば、気軽に手を挙げてみてください。自治体職員として、学生の皆さんの参加を楽しみにしています。

飯塚 後先を考えすぎずに一度飛び込

んでみるのも、意外と面白いものです。新しい世界が広がるきっかけになるかもしれません。ぜひ挑戦してみてください！

渡邊 普段なかなか経験できないことが詰まった活動ですし、私自身もこのプロジェクトを心から楽しむことができました。今後も一緒に北区を盛り上げてもらえると嬉しいです。

川島 北区の職員として活躍されている社会人の先輩方をはじめ、他大学の学生とも交流できる、とても貴重な機会でした。私自身、「また参加したい!」と思えるほど充実した時間を過ごすことができました。

田中 学外の活動なので、不安やドキドキもあると思います。でも4年間しかない大学生活だからこそ、思い切って挑戦して自分の可能性を広げるきっかけにしてほしいです。ぜひ一歩を踏み出してみてください。

pick up!

北区×東京成徳大学 “鈴木誠二教授(経営学部)が、北区の産業発展支援に参画”

東京都北区が新たに打ち出す『産業発展・商店街活性化』施策に参画

経営学部の鈴木誠二教授は、東京都北区の「令和8年度予算案」における「産業発展・商店街活性化」施策に、策定段階から参画しています。その背景には、鈴木教授が北区の産業振興の基本戦略「北区産業活性化ビジョン2026」検討委員会で副委員長を務めた経緯があります。2026年4月から施行された施策には、商店街の空き店舗を高校・大学の学びの場として活用する取り組みや、地域と商店街をつなぐ「地域応援団」の設置などが含まれています。これまで全国各地で実践してきた問題解決型学習(PBL)を、北区の十条商店街を拠点に展開するものです。「大学が学びの場として活用」することで、「商店街の賑わい創出」につながる施策として、大学と地域が互いに価値を生み出す協働が期待されています。

東京成徳大学
経営学部
鈴木誠二教授



Check!

今号26ページ『先生に聞く。-東京成徳の研究紹介-』では鈴木先生の取り組み研究内容を詳しく紹介しています。こちらもぜひご覧ください。

北区の次世代産業人材育成プロジェクト『北区担い手みらい塾』に副塾長として参画

「北区担い手みらい塾」とは、北区と東京商工会議所北支部が共催し、北区をより良くしようという同じ志を持つ参加者を募り、組織や立場の垣根を越えて相互理解を深めながら、公民連携により北区の地域価値向上を目指して、勉強会や発表会を行う次世代産業人材育成プロジェクトです。

開講3年目を迎えた今年、昨年に続き鈴木教授が副塾長を担当。北区の未来産業を担う人材育成に寄与するとともに、学生が実務家と活発に交流できる環境をより一層整えています。



塾長: 田辺恵一郎氏(写真右)

副塾長: 鈴木誠二教授(写真左)

名誉塾長: やまだ加奈子北区長(中央)

中高一貫部

高等部

“東京成徳の中等教育”

— 100年を超え、進化する学び —

2026年の学園創立100周年は、東京成徳大学中学・高等学校の創立100周年の歴史でもあります。今回は、6カ年の中高一貫教育を行う中高一貫部と、高校入学からの3カ年の高校教育を行う高等部の2つの教育体制にスポットをあて、異なるカリキュラムのもとで生徒を育む両校のコンセプト、建学の精神である「成徳の精神」をどう継承し、いかに次の時代へとつないでいくのか、2つの中等教育を紐解きます。両校の副校長・教頭の先生5名が集い、それぞれの教育の現在と未来について語り合いました。

— まず、両校の教育の根幹となる考え方について教えてください。

石井 東京成徳大学中学・高等学校の中高一貫部では、6年間の一貫教育において「創造性・主体性・チャレンジ精神」というテーマを掲げてきました。

変化の激しい時代を生きる生徒たちに、グローバルな視点やテクノロジーを活用した先進的な教育を展開しながら、探究型学習を通じて自らの興味・関心を深める学びを実践しています。大切なのは、“教える”と“実践する”のバランスを取りながら、時代の変化に合わせて教育を柔軟にアップデートし続けることだと考えています。

佐藤 東京成徳大学高等学校 高等部では、これからの時代に求められる人間力の育成を見据え、「紡ぐ。繋がる。そして、輝く。」というコンセプトを掲げています。

生徒一人ひとりの目標や進路希望に応じた3つのコース制のもと、学年400名を超える仲間とともに文「部」両道に励み、仲間とともに目標達成を目指し、自分を深める学習を通じて人間としての土台を築く。その過程の中で、何事にも果敢に挑戦し、たくましさややさしさを備えた人間へと成長していく——。その姿を支えることが、高等部の目指す教育のあり方です。

— 中高一貫部と高等部では、入学してくる生徒像にどのような違いがあるのでしょうか。また、それぞれの教育を通して、生徒たちにどのような成長を期待していますか。

石井 中高一貫部は、小学校卒業後に入学した生徒たちと6年間向き合い、生地をじっくり織り上げていくように「成徳の精神」を一人ひとりの中に染み込ませながら、成長に寄り添っていくスタイルです。1学年160名という規模だからこそ、集団・個別の両面からきめ細かく対応することができます。6カ年という長い時間をかけて生徒の成長を見守りながら、海外留学をはじめとする多彩なプログラムを通して「成徳の精神」が自然と一人ひとりの土台となり、価値観や行動の礎となることを目指しています。

佐藤 高等部には、高校受験を経て多様な背景を持つ生徒たちが集まるため、一人ひとりがすでに自分なりの個性を持ちながら、「文『部』両道」という共通の志を持つチームのような集団です。主体性

西山 喜三男 先生
東京成徳大学
高等学校(高等部)
教頭

2008年中高一貫部に社会・地歴公民科非常勤講師として着任。2024年より現職。高校男子バレーボール部顧問。自分を深める学習部部長。

佐藤 則之 先生
東京成徳大学
高等学校(高等部)
教頭

1994年中高一貫部に情報・数学専任教諭として着任。2020年より高等部教頭補佐を務め、2021年より現職。バトントワリング部顧問。

石井 英樹 先生
東京成徳大学
中学・高等学校(中高一貫部)
副校長

2000年中高一貫部に理科専任教諭として着任。2004年より15年にわたり高等部に所属し、2019年より中高一貫部所属。2021年より現職。天文部顧問。



を大切にしながら、新たな環境の中で仲間と切磋琢磨し、刺激を受けながら成長していく活気があり、その過程で「成徳の精神」を体現する人間へと成長していきます。生徒たちは自らの進路や将来に真剣に向き合い、高校3年間という限られた期間で大きく成長していきます。短期間で著しい変化や成長が見られる点は、高等部ならではの魅力だと思います。

— 同じ学園の中で、6カ年教育と3カ年教育の両方を展開していることは、東京成徳の大きな特色のひとつです。各校の教育には、どのような役割や強みがあるとお考えでしょうか。

石井 両校は徒歩7分ほどで行き来できる距離に位置し、建学の精神である「徳を成す人間の育成」、そして「成徳の精神を持つグローバル人材の育成」という共通のビジョンがあります。一方で、前述したように中高一貫部と高等部では教育コンセプトやカリキュラム、生徒たちの背景が大きく異なります。

誤解を恐れずに言えば、中高一貫部と高等部は「別の学校」として捉えるべきだと思っています。ただ、その違いこそがそれぞれの強みです。異なるアプローチで同じ方向を目指しているからこそ、互いを客観的に見つめながら良い部分を吸収し合い、学園として向上していく——。中高一貫部と高等部のどちらが優れているということではなく、それぞれが異なる教育的価値を持ち、生徒一人ひとりの多様な可能性を支えてい

る。これこそが東京成徳の大きな魅力であり、2つの中等教育が共存する意義だと感じています。

— グローバル教育とICT教育は、学園全体の教育活動に共通する大きな柱となっています。まずはグローバル教育の取り組みからお聞かせください。

和田 中高一貫部で大きな特色となるのは、中学2年次に生徒全員参加で実施するセブ島での2週間の短期留学です。語学トレーニングや海でのアクティビティに加え、現地のスラム街にある寺子屋への訪問もプログラムに組み込んでいます。貧しい環境の中で「病気の家族のために医者になりたい」と夢を語る子どもたちに出会うなど、生徒たちは異なる環境下での価値観に触れ、自らの視野を大きく広げていきます。毎年生徒たちは寺子屋の子どもたちと仲良くなり、世界のどこでも誰とでも壁をつくらずに関われることは、本校の生徒たちに共通する強みだと思います。

福島 全員参加であっても画一的なプログラムではなく、一人ひとりの英語力や興味・関心に応じて異なる時間割を組み、生徒それぞれに合わせて学べる設計になっています。こうした体験を経て、中3でのニュージーランド短期留学、または国内でのグローバルプログラムを選択します。個々のスキルやパフォーマンス向上を目指し、高1からはグローバル教育に加え探究型学習にも力を入れながら、自己実現に向けた多様なプログラムを実施しています。

石井 また、グローバルな視野で進路を考える生徒たちが集う「東京成徳グローバルプロジェクト(通称GP)」も特色のひとつです。月に2〜3回放課後に活動しており、海外進学的基础的な知識から、IELTSへの挑戦、起業プログラムコンペへの参加など、多彩なプログラムを展開しており、生徒たちは自ら目標を設定し、主体的に挑戦を重ねています。

2025年3月には、当時の高校3年生で編成された模擬会社チームが、アジア・パシフィック地域の高校生を対象としたビジネスコンテスト「Company of the Year(COY)」に日本代表として出場しました。各国の高校生とともに企業経営を疑似体験し、実践的なビジネスを学びながら多様な価値観に触れ、自らの将来像を描く視野を広げる貴重な機会となりました。



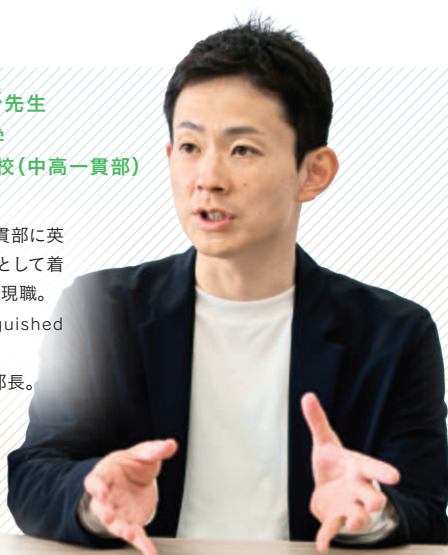
【中高一貫部】グローバルプロジェクトのメンバーが、スチューデント・カンパニー・プログラム国際大会に日本代表として出場

西山 高等部は全員参加型の留学制度はありませんが、ネイティブ教員と日常的に交流できる環境や、全生徒による英検受験などをきっかけに、留学への関心が年々高まっており、多くの生徒が短期・中期・長期の海外留学プログラムへ挑戦しています。特にオーストラリアで



和田 一将先生
東京成徳大学
中学・高等学校(中高一貫部)
教頭

2012年中高一貫部に英語科専任教諭として着任。2025年より現職。
Apple Distinguished Educator認定。
中学入試広報部長。



福島 祥雅先生
東京成徳大学
中学・高等学校(中高一貫部)
教頭

2006年中高一貫部に社会・地歴公民科専任教諭として着任。2025年より現職。
Apple Distinguished Educator認定。
女子テニス部顧問。



の短期留学は高等部発信の取り組みですが、今では中高一貫部の生徒も参加するなど、校種を超えた学びと交流の場にもなっています。短期留学は部活動で忙しい生徒でも海外経験が積めることもあり、近年は参加生徒が増加傾向です。留学を経験した生徒たちは現地で異なる文化や価値観に触れることで、チャレンジ精神や主体性、多様性への理解が育まれています。



【高等部】オーストラリアの現地高校に通学しながら英語を学ぶ海外短期研修に、多くの高等部の生徒が参加

—ICT教育について、各校でどのような取り組みをされていますか。

和田 中高一貫部では2017年から全生徒にiPadを導入しています。数学の方程式をゲーム感覚で学べる授業が生まれるなど、従来の学び方とは異なるアプローチが可能になりました。苦手意識を持っていた生徒が新たな切り口から興味を持つなど、学びの入り口が多様化した手応えがあります。こうした実践が評価され、本校はApple社が認定する先進的な教育機関「Apple Distinguished School(ADS)」にも選出されています。また、Apple Distinguished Educator(ADE)※の資格を持つ教員も6名在籍しており、教員自身もICTを活用した教育手法を常に学び続けています。

佐藤 高等部も全生徒にiPadを配備し、Microsoft Teamsを学習プラットフォームとして活用しています。授業資料や課題の配信、レポート提出、小テストの実施などを行い、日常的にICTを活用した学習環境を整えています。生徒が自らプレゼン資料を作成し発表する機会も多く、3年間という限られた期間でも、ICTを活用し、学びの密度を高めています。探究活動とも連携しながら、生徒一人ひとりの主体的に学ぶ姿勢を育み、これからの社会に必要とされる情報活用能力の育成を図っています。

—グローバル教育、ICT教育に続く特徴的なアプローチが探究型学習です。両校それぞれの探究型の学びについて教えてください。

—グローバル教育、ICT教育に続く特徴的なアプローチが探究型学習です。両校それぞれの探究型の学びについて教えてください。

福島 中高一貫部では高1・高2の2年間に探究型学習の時間を設けています。高1は生物や化学、社会、芸術など幅広い分野の講座から、例えば「アプリケーションを開発しよう」「美味しいコーヒーを淹れよう」「SDGsと社会貢献」などのテーマから興味を持った講座を選び、1年間かけてひとつのテーマを掘り下げます。高2では自らテーマを設定し、調査や研究を進める段階へと発展します。そして高3では、探究活動の集大成として、「人生プラン研究」に取り組みます。

西山 高等部では「グローバルスタディーズ」と「自分を深める学習」の2つの探究活動を柱としています。前者はプレゼンやディスカッションを磨く学びである一方、後者はやや特殊で「自分とは何か?」という、答えの出ない問いに、一人ひとりが向き合います。生徒たちは明確な答えを見つけられず、授業後もモヤモヤした感覚が残ることもありますが、考え続けることそのものに大きな価値があると考えています。感性や哲学的な問いをもとに自ら考え、壁にぶつかった時は他者と協働し、再び挑戦していく。そのプロセスを通じて、人としての深みや主体性を育んでほしいと思います。高等部では授業と部活動を両輪に、こうした人間的な成長を目指しています。

和田 これは学園全体に共通する考え方ですが、私たちが探究型学習やグローバル教育、ICT教育を通して育むのは、学力だけが優れた生徒ではありません。偏差値や進学実績だけにとらわれず、多様な体験や見聞を通して視野を広げ、さまざまな人と関わりながら人間的に成長すること。人として信頼さ

れ、自らのやりたいことを明確に持ち、その実現に向けて行動できる人材を育てること。それこそが、私たちの目指す教育の根底にある考え方です。

—部活動を通じた両校の交流についても聞かせてください。

福島 文化部には、中高一貫部の中学生・高校生と一緒に活動することもあります。運動部は大会への出場規定もあり、中高一貫部でも高校生になると高等部の生徒とともに活動する部活が大半です。生徒は中1から長い期間を同じ仲間と過ごしているため、高等部の生徒たちと部活で関わることで新たな価値観に触れ、視野が広がっていきます。同時に高等部の生徒たちも、中高一貫部の生徒から刺激を受けています。部活動は両校の生徒が交流できる貴重な機会であり、学園の中で最も自然に学校間のつながりが生まれる場だと思っています。

西山 別々の学校に通う生徒たちが、放課後になると同じ部活で汗を流し、一緒に成長していくような感覚があります。特に高等部は部活動が盛んで、芝生のグラウンドや5つの体育館など充実した環境を生かし、多くの部が都内でも上位レベルの実績を残しています。仲間と切磋琢磨する中で、コミュニケーション力や協調性を育み、人として成長していく。その過程もまた、東京成徳の中等教育の大切な要素です。近年部活動の地域移行が社会的に議論されていますが、学校教育の一環として部活動に本気で取り組み続けることは、大きな特色になると考えています。だからこそ、文「部」両道を掲げながら、短期留学などのグローバルプログラムとも両立できる仕組みを整えてきました。部活動に打ち込みながら、海外での学びにも挑戦する。こうした多様な経験を通して、生徒たちには視野を広げ、自分の可能性を伸ばしてほしいと思います。

—“両校は全く別の学校である”という認識を前提のうえで、学園内に6カ年教

※Apple Distinguished Educator(ADE) : Apple製品を活用した革新的な教育実践を行う世界の教育者を認定する制度



育と3カ年教育が共存していることには、どのような意義があるとお考えでしょうか。

福島 中高一貫部の6年間は、少年期から青年期へと、人としての土台が形づくられていく大切な時間です。まだ自分の価値観や進むべき方向が定まらない時期から、一人ひとりが自らの意志で将来を選び取れる人間へと成長していく過程に寄り添っています。

一方、高等部の生徒たちは、高校受験を経て、ある程度自分なりの個性や目標意識を持って入学してきます。同じ「成徳の精神」を持つ人間の育成を目指していても、生徒たちが立つスタートラインは異なる。だからこそ、それぞれの発達段階や特性に応じた育み方があり、その両方が存在していることに大きな意味があると感じています。

和田 近年はフリースクールやオンライン中心の学校など、学びの選択肢が多様化しています。だからこそ私たちは、なぜ生徒がリアルな学校に通うのか、その価値を改めて問い直し、丁寧に発信していく必要があります。人と人が直接関わり合うことで生まれる学びや



西山先生が顧問を務める高校男子バレーボール部では、高等部・中高一貫部の生徒が互いに刺激を受けながら、日々活動に励んでいる。

成長、仲間と時間を共有することで育まれる人間関係や経験。それは、オンラインだけでは得ることのできない学校教育の大きな魅力です。3カ年教育であっても、6カ年教育であっても、その根底にある考え方は変わりません。

私たちがどのような教育を目指し、どのような人材を育てようとしているのかを、生徒や保護者、そして地域社会に誠実に伝え続けること。そして、それぞれの教育スタイルの価値を理解していただき、選ばれ続ける学校であり続けることが、これからの東京成徳に求められていることだと思います。

西山 3年・6年と教育の期間こそ異なりますが、大切なのは、その時間の長さではなく、一人ひとりがどれだけ深く学び、自分自身と向き合えるかだと思います。

生徒が「これをやりたいから学ぶ」と主体的に思える体験を積めること、そして多様な学びの選択肢が用意されていること。これが東京成徳学園の大きな強みです。高等部の3年間の役割は、さまざまな中学校から集まった生徒たちが「仲間と出会い、自分と向き合い、人間として成長できる場」を提供することだと考えています。部活動、自分を深める学習、そしてグローバルな体験。その一つひとつを通して、リアルな人間関係の中でしか得られない成長の機会を提供していく。学園が100年にわたって大切にしてきたのは、人を育てるという教育の本質です。その思いを受け継ぎながら、次の100年に向けても、生徒一人ひとりの可能性を広げる教育を続け

ていきたいと思っています。

——最後に、中高一貫部、高等部の両校の連携を、今後どのように発展させていきたいとお考えでしょうか。

佐藤 部活動や学校行事だけでなく、探究活動やICT教育、国際交流などの分野でも交流の機会を広げていくことで、生徒たちがより多様な学びに触れられる環境をつくっていきたくと考えています。また、生徒同士だけでなく、教員同士の連携もさらに重要になると感じています。それぞれの教育実践や指導方法を共有しながら、互いの強みを生かし合うことで、学園全体として教育力をさらに高めていけるのではないのでしょうか。同じ理念を共有しながらも、異なる教育を展開しているからこそ、互いに学び合い、高め合える関係であり続けたいと考えています。

石井 それぞれの教育実践を共有し合うことで、教員自身の教育への視野も広がり、新たな発想や気付きを得られるのではないかと感じています。また、個々の教員の経験や力量に依存するのではなく、組織として教育の質を高めていく仕組みを構築することも重要です。そうした取り組みを積み重ねることで、学校の枠を超えて学園全体がひとつとなる「オール東京成徳」の実現につながっていくと考えています。100年の歴史の中で培ってきたそれぞれの強みを生かしながら、次の100年に向けて、新しい価値を生み出していく。そうした関係を、両校で築いていきたいと思っています。

就任のごあいさつ

東京成徳大学
深谷中学・高等学校 校長

青木 孝夫 Aoki Takao



積み重ねてきた歩みを、次のステージへ

4月より、深谷中学・高等学校の校長として就任いたしました青木孝夫です。どうぞよろしくお願いいたします。昨年度は大学において教員養成に携わり、それ以前は校長としての経験を踏まえ、埼玉県教育局にて教育行政に従事してまいりました。再び学校現場に身を置き、生徒たちのあいさつや笑顔に日々触れる中で、教育の持つ本来の力を改めて実感しております。

学校の財産は教職員の熱意であり、これに勝る価値はありません。生徒に真摯に向き合い続けてきた教職員の姿が、本校教育を支える確かな土台となっています。予測困難な時代にあって、不易の価値と変化への対応を両立させる姿勢は、成徳の建学の精神に通じています。本校が培ってきた強みを生かし、教職員を中心に、保護者や地域の皆さまと衆知を結集し、本校のさらなる充実・発展に尽力してまいります。

法人本部

本部組織の一部変更のお知らせ

学校法人東京成徳学園は、2026年
で100周年を迎えました。これからの時代に向け、2026年4月1日より法人本部
における組織変更が行われましたので、お知らせいたします。

【変更内容】

法人本部 経営企画部を新設いたしました。経営企画部の新設に伴い、企画調査室は廃止しました。

新たな組織図は、右記の通りです。

東京成徳大学
応用心理学部 臨床心理学科長

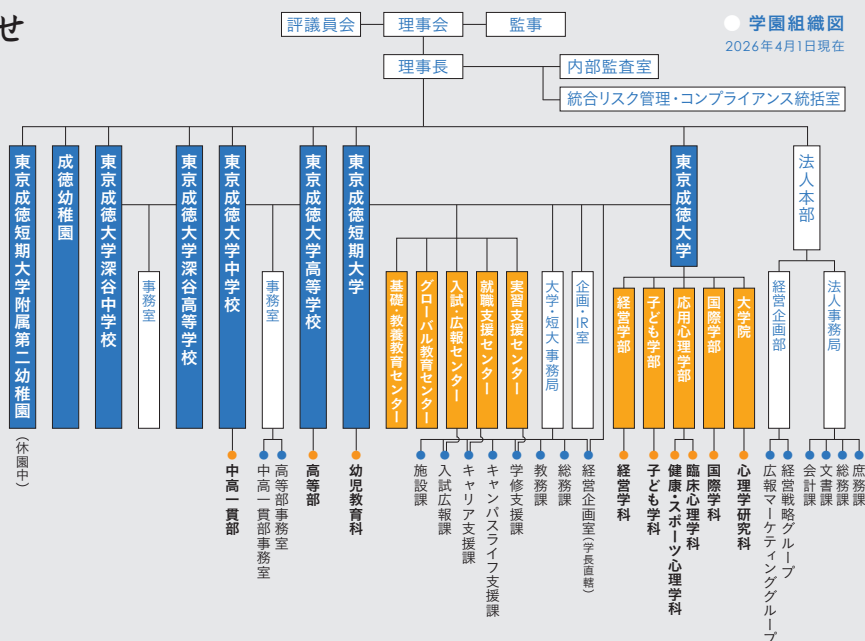
根津 克己 Nezu Katsumi



“普遍と時流”

4月より応用心理学部臨床心理学科長を拝命いたしました根津克己です。

2013年、英国の研究者が「将来、多くの職業がコンピュータに置き換わる」と発表し、話題となりました。しかし近年のAIの劇的な進化を見るに、わずか10年余りで、その予測すら大きな更新が必要な時代になっています。さて、昨今の大学論を見ると、即戦力や実践力、端的に言えば「稼げる人材」の育成が強く求められています。それが一つの時流でしょう。一方で、大学には時代に左右されない普遍的な知の探究という使命があります。たかだか10年で変化する時流だけを積み重ねても、土台がなければ、いずれ崩れ去ってしまいます。普遍を学び、そこから時流を眺めること。そして、普遍と時流を往還できる人材を育成すべく、教育の場で微力を尽くす所存です。



東京成徳大学 国際学部

JICA地球ひろばでSDGsを体験学習

5月9日(土)に国際学科の1年生は「グローバルスタディー入門」の学外授業として市ヶ谷のJICA地球ひろばを訪問し、学習プログラムに参加しました。本プログラムは同ひろばの体験ゾーンでの学習、JICA海外協力隊員による体験談で構成され、各1時間ずつ、合計2時間行われました。体験ゾーンではSDGsに関するさまざまな展示を通じて、地球規模の課題について学習しました。また、ボランティア体験談では、協力隊の活動や現地の人々の生活について具体的なお話を伺いました。学生たちはSDGsが対象とする地球規模のさまざまな課題について理解を深めることができました。

国際学部長 芳賀 克彦



東京成徳大学 子ども学部

グループワークにおける生成AIを用いた調べ学習や発表準備

生成AIが普及する中、情報リテラシーを身に付ける実践が学生にも求められています。3年生の授業「ハンディキャップ論A」では、グループ学習においてMicrosoft 365に加え、新たにGoogleの「NotebookLM」を導入しました。AIに読み込ませる資料によってアドバイスが変化することを体感することで、学生たちは信頼できる資料の重要性を理解します。合わせて、差別的表現の有無や情報の真偽なども確認しています。生成AIとの対話を通じた分析に加え、仲間と気づきを共有しながら学びを深められることは、対面授業ならではの魅力です。

子ども学部教授 那須野 三津子



東京成徳大学 経営学部

実就職率が東京の私大でNo.1に

経営学部の2025年3月卒業生の実就職率が『大学探しランキングブック2026』(株式会社大学通信)にて東京の私大で1位となりました。2026年3月卒業生の実就職率も、昨年を上回る結果となっています。経営学部では必修科目「キャリア・デザイン」を1年生後期から3年生後期までシームレスに設定し、企業訪問や就職イベントへの参加等を実施しています。2025年11月には、東京ビッグサイトで開催された「東京ネイルエキスポ 2025」取材し、それをもとに営業企画を作成、プレゼンテーションを行う一泊の学外授業を実施しました。実践力を身に付けることで、学業にも積極的に取り組む学生が増えています。

副学長・経営学部長 村山 純



応用心理学部
東京成徳大学 **臨床心理学科**

「成徳の心理学」今年も開講

「成徳」の名を冠したこの科目は、入学したばかりの1年生を対象としています。専任教員全員が毎回交代で担当し、それぞれの専門分野や関心事について講義を行うオムニバス形式の授業です。この科目には、2つの大きな目的があります。1つは、これから先の4年間、どのような教員から指導を受けるのかを知ることです。単なる顔見せにとどまらず、それぞれの教員の専門分野に触れることで、今後の学修の指針にもなります。2つ目の目的は、研究や臨床活動に従事する教員の講義を聴くことで、心理学の最先端に触れることです。入学直後でありながら、貴重な経験を得ることができます。

臨床心理学科長 根津 克己



応用心理学部
東京成徳大学 **健康・スポーツ心理学科**



スポーツ系学部から弁護士へ！ 馬淵先生の特別講義を開催

健康・スポーツ心理学科では、2026年度から学科独自のキャリア関連科目を展開しています。その一環として、「キャリアデザインI」にて特別講義「生き方を知る①」を実施しました。今回はスポーツ系の学部出身で弁護士になられた馬淵雄紀先生（名京法律事務所）をお招きしました。馬淵先生は現在、サッカー選手の代理人やスポーツロイヤーとしてもご活躍中です。講義では、複数のキャッシュポイントを作ることの重要性や最前線のスポーツビジネスについてお話いただきました。自身のキャリアを考えるうえで、学生たちにとって大いに参考となる貴重な機会となりました。

健康・スポーツ心理学科長 出雲 輝彦

東京成徳大学大学院 **心理学研究科**

心理学コミュニティの発展

心理学研究科では、本年度13名の新入生を迎えることができました。修士課程12名、博士課程1名の新しい仲間が、心理学研究科コミュニティの一員となりました。修士課程12名のうち、4名が本学応用心理学部臨床心理学科の卒業生です。学部課程と大学院課程の連携を充実させるため、OBOGネットワークイベントとして、2026年9月19日（土）に、外部講師をお招きして研修会を開催する予定です。この研修会を通じて、現役大学院生と修了者の皆さんの交流を図り、学部と研究科の連携を充実させ、さらに東京成徳大学心理学コミュニティを発展させていきます。

心理学研究科長 茂呂 雄二



東京成徳短期大学 幼児教育科

新入生 学外研修@国立オリンピックセンター

幼児教育科の新入生は、4月17日(金)に国立オリンピック記念青少年総合センターで学外研修を実施しました。班ごとに経験豊富な野外教育スタッフと共に、ネイチャーゲームやクラフトで自然と触れ合い、野外炊事(カレー作り)では、耐火れんがで試行錯誤しながら作ったかまどと薪でご飯を炊き、片付けまで全てを自分たちの手で行いました。最後は学年全員でヒューマンチェアに挑戦し、大成功。満足感と共に、一人ひとりがワークシートを用いて一日の振り返りを行いました。学外研修を通して親睦を深め、保育者になるという意識を高められたことが、研修後の学生生活にも生きています。

幼児教育科教授・1年学年主任 大國 ゆきの



東京成徳大学中学・高等学校 中高一貫部

中学3年生 国内グローバルプログラム

国内グローバルプログラムでは、「基礎学力の確認」「探究的な学び」「グローバルな視野の育成」を柱に、多様な活動を行っています。留学生と協働する課題解決学習やホームステイ、英語環境での宿泊研修を通して異文化に触れ、外国人と積極的にコミュニケーションを取る経験を重ねました。教室での学びを超えた体験は、生徒一人ひとりが将来を考え、国内外へと視野を広げる大きな一歩となっています。また、「Vもぎ※」による基礎確認や校外学習を多く取り入れ、学びと社会をつなぐ力を育てることで、将来の進路や職業を主体的に考える姿勢が育まれています。これらの学びを通して、自らの可能性を見つめ、次のステージへ挑戦してほしいと考えています。

※中学3年生対象の高校入試のための模擬テスト(株式会社進学研究會主催)

3年学年主任 安田 一平



東京成徳大学高等学校 弓道部

第70回関東高等学校弓道大会進出 「一人では届かない場所へ、共に」

このたび、東京都大会女子団体において優勝を果たし、関東大会への出場を決めました。一方で、個人戦では誰一人として予選を通過することができず、不安や悔しさを抱えながらも、生徒たちは仲間と共に挑み続けました。一人では弱くとも、お互いを支え合うことで強くなれる。団体決勝で全員が最後の一本を射抜いた姿に、成徳の精神の本質を感じています。部活動は、結果だけを追い求めるものではありません。その過程の中で育まれる「他者と生きる力」にこそ、大きな価値があると考えています。関東大会でも、一射一射を大切にしながら、挑戦を続けてまいります。

弓道部顧問 塚本 浩貴



東京成徳大学深谷中学・高等学校 中高一貫コース

校外宿泊学習(中2)神奈川県三浦市

5月12日(火)・13日(水)の1泊2日で、神奈川県三浦市にて「校外宿泊学習」を実施しました。1日目は海洋教育として、神奈川県水産技術センターを訪れ「神奈川の漁業・磯焼け対策」について学習しました。その後、三浦市の景勝地である県立城ヶ島公園～長津呂の磯周辺を散策し、内陸県の埼玉では観ることのできない絶景を目にして、生徒たちは思わず歓声を上げていました。2日目は三崎水産物地方卸売市場を訪れ、その日の朝に獲れた魚が競りにかけられている貴重な様子を見学しました。その後、遠洋漁業で獲れた冷凍マグロを保存している超低温冷蔵庫に入り、マイナス60度の世界を体験しました。最後に三崎港で遊覧船に乗り、船底から海中の魚を観察しました。これらの体験は、生徒たちにとって大変有意義な学びとなりました。

中学校教頭 櫻井 克彦



東京成徳大学深谷高等学校

木島平校外学習

4月20日(月)から2泊3日の日程で、高校1年生が長野県木島平村にて校外学習を実施しました。今年度の校外学習では、初日は善光寺の見学や語り部による民話の拝聴、2日目はボッチャやカレーづくり、築太鼓の鑑賞、最終日はそば打ちなど、さまざまな体験を行いました。

参加した生徒からは、「仲間と協力することの大切さや、3日間共に生活する中で友達の良いところを知ることができ、楽しい思い出になりました」などの感想が寄せられました。多くの体験を通じて、人間関係づくりや集団生活における規律を学ぶことができ、校外学習の目標を達成し、大きな成果を収めることができました。

1年学年主任 野平 貴史



成徳幼稚園

元気いっぱい戸外遊びを楽しむ子どもたち

入園・進級した子どもたちは、毎日お友達や先生たちと幼稚園生活を過ごす中で、特別カリキュラムや集団生活等のいろいろなことを経験しながら、多くのことを身に付けています。お天気の良い日には幼稚園の園庭や中高一貫部のグラウンドで元気いっぱい遊んでいます。それぞれが好きな遊びを見つけ、鬼ごっこ・ケンパ・フリスビー・ボール遊び等で走り回る子どもたちの笑顔と楽しそうな声が響き渡っています。これからも集団遊びを通して友達と関わる中で、たくさんのことを感じ、学んでほしいと思います。今後も十分に水分補給を行いながら、季節を感じて遊んでいきます。

教頭補佐 黒澤 弘美



CLUB ACTIVITIES REPORT

クラブ活動報告 2025年10月～2026年3月

全国 全国大会進出 関東 関東大会進出

● 東京成徳大学

男子バスケットボール部 BASKETBALL

第101回 関東大学バスケットボールリーグ戦 3部リーグ-5位(14勝8敗)

● 東京成徳大学高等学校 (都ベスト16以上)

女子バスケットボール部 BASKETBALL

令和7年度 全国高等学校バスケットボール選手権大会
東京都予選 3位 全国

SoftBank ウインターカップ2025
第78回 全国高等学校バスケットボール選手権大会 出場
令和7年度 東京都高等学校女子バスケットボール新人大会 4位

女子バレーボール部 VOLLEYBALL

令和7年度 全日本バレーボール高等学校選手権大会
東京都1次予選 ベスト16
第34回 東京私立高等学校男女バレーボール選手権大会 ベスト16
令和7年度 東京都高等学校 新人選手権大会 9位

バトントワリング部 BATON TWIRLING

第45回 バトントワリング東京都大会
コンテストの部 学校部門 高等学校 金賞 関東
第60回記念 バトントワリング関東大会
学校部門 高等学校 金賞 全国
第53回 バトントワリング全国大会 学校部門 高等学校 銀賞

女子ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

第23回 中高生女子ラクロス秋季関東大会
(Autumn Cup 2025) 準優勝 全国
第17回 全国中学校高等学校女子ラクロス選手権大会 優勝
大会MVP(高2)

pick up !

東京成徳大学中学・高等学校 女子ラクロス部 強豪ひしめく全国大会を制覇、6度目の日本一

女子ラクロス部「BRAVE YOUTH」が、「第17回全国中学校高等学校女子ラクロス選手権大会」において優勝し、通算6度目となる全国制覇を達成しました。

全国の強豪校が集う非常にハイレベルな大会でしたが、初戦から接戦を勝ち抜き、激戦を制して再び全国の頂点に立ちました。「日本一」を目標に積み重ねてきた努力が実を結んだ見事な優勝。BRAVE YOUTHの選手の皆さん、優勝おめでとうございます。

弓道部 KYUDO

第38回 東京都弓道連盟第三地区 中学・高校弓道大会
男子個人:2位(高2)
女子団体:3位(高2-2名、高1-1名)
女子個人:7位(高2)

● 東京成徳大学深谷高等学校 (県ベスト16以上)

サッカー部 SOCCER

第104回 全国高等学校サッカー選手権大会 埼玉県予選 3位
高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2025埼玉 優勝

卓球部 TABLE TENNIS

令和7年度 埼玉県高等学校卓球競技新人大会 男子学校対抗-9位

パワーリフティング部 POWER LIFTING

第90回 埼玉県サブジュニア・ジュニアパワーリフティング選手権大会
男子:59kg級-優勝(高2) 全国、11位(高2) /
66kg級-9位(高1)、11位(高1) /
74kg級-6位(高1) / 83kg級-3位(高1)
女子:47kg級-優勝(高1) 全国 / 57kg級-2位(高1) 全国

全日本パワーリフティング選手権大会
第31回 ジュニア・サブジュニアクラシック部門
男子:59kg級-4位(高2)
女子:57kg級-3位(高1)

写真部 PHOTOGRAPH

第42回 埼玉県高等学校総合文化祭高校写真展 優良賞(高3)

美術部 ART

第53回 埼玉県私学文化祭 優秀賞(高3) / 佳作(高2)

● 東京成徳大学中学校 (都ベスト16以上)

女子バスケットボール部 BASKETBALL

令和7年度 東京都U-15バスケットボール選手権大会 ベスト8

女子ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

(東京成徳大学高等学校の女子ラクロス部参照)



優勝トロフィーを掲げる
女子ラクロス部の選手たち



大学・短期大学の就職・進路

2025年度卒業生の進路状況と本学の就職支援



就職支援センター長
武井 孝介

このたび、前任の稲垣久美子先生の後任として、2026年4月1日付で就職支援センター長を拝命いたしました武井孝介と申します。どうぞよろしくお願いいたします。2025年度の大学および短期大学卒業生の進路決定率は、大学全体で94.3%、短期大学では98.8%と、前年度に引き続き高い水準を維持しています。昨今の新卒採用市場は人手不足を背景に「売り手市場」が続いてきましたが、一方でAIの普及に伴う業務効率化やイラン情勢などの「地政学リスク」が今後の採用活動に影響を及ぼす可能性も指摘されています。

こうした変化の激しい時代だからこそ、本学では学生が企業・団体の知名度やブランドだけに左右されることなく、自らの価値観に基づいた「生き生きと働ける」就職先を見つけることを最優先に考えています。そのため1年次からの体系的なキャリア教育に加え、個別相談や模擬面接、エントリーシート添削といった一人ひとりに寄り添うきめ細かなサポートを徹底しています。学生が将来への希望と仕事のやりがい、そして自信を持って社会へ羽ばたけるよう、全学を挙げてその可能性を最大限に引き出す支援を継続してまいります。今後とも、就職支援センターの活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主な進路先（民間企業等は五十音順）

大学

就職

【民間企業等】

(株)アイセイ薬局、(株)アインホールディングス、曙ブレーキ工業(株)、朝日信用金庫、(株)アルベージュ、(株)イトーヨーカ堂、H.I.S.ホテルホールディングス(株)、(株)F・O・インターナショナル、オルビス(株)、川口信用金庫、KCJ GROUP(株)、埼玉縣信用金庫、さわやか信用金庫、サンライズ(株)、(株)JR西日本レールテック、(株)シャルレ、スポーツコミュニティ(株)、西武信用金庫、西武鉄道(株)、(株)大創産業、ディップ(株)、東京シティ信用金庫、(福)東京聖労院、東京東信用金庫、(株)東京早稲田外国語学校、(株)ニトリ、日本調剤(株)、(株)ノジマ、バルシステム共済生活協同組合連合会、(株)ファーストリテイリング、(株)フォーカスシステムズ、(株)マイナビ、(株)三井不動産ホテルマネジメント、(株)ラコステジャパン、リーフラス(株)、ルートインジャパン(株)

【公務員】(教職・保育職以外)

警視庁、神奈川県職員、昭島市職員、さいたま市消防局

【教職・保育職】

小学校、幼稚園、保育所、認定こども園、学童クラブ、施設等

進学等

東京成徳大学大学院 心理学研究科、東洋大学大学院 健康スポーツ科学研究科、日本大学 通信教育部、天津外国語大学、キクチ眼鏡専門学校、新宿医療専門学校、東京電子専門学校

短期大学

就職

【教職・保育職】

幼稚園、保育所、認定こども園、施設等

【民間企業等】

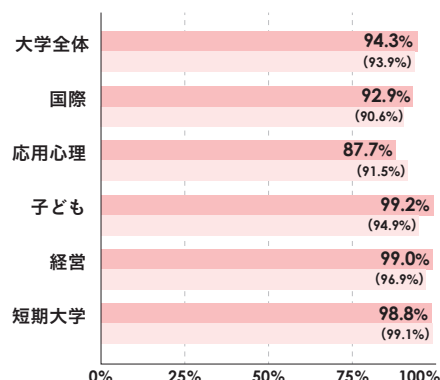
(株)スタジオアリス

進学等

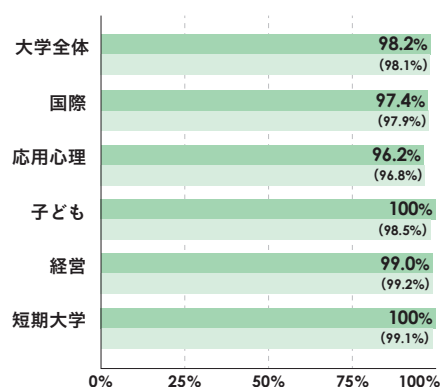
東京成徳大学 子ども学部子ども学科、La Lingua Language School シドニー校

2025(令和7)年度卒業生進路状況（）は前年度

進路決定率 $\left(\frac{\text{就職決定者} + \text{進学決定者}}{\text{卒業生}} \right)$



就職決定率 $\left(\frac{\text{就職決定者}}{\text{就職希望者}} \right)$



詳細は大学ホームページをご覧ください

高等学校の進学

東京成徳大学高等学校

高等部

高等部の2025年度の卒業生493名のうち、進学者は425名でした。
その内訳は、大学399名、短大4名、専門学校22名です。

高等部では“行ける大学”ではなく“行きたい大学”への進学を目指しています。年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）の需要と供給が高まり、志望校より先に受験方法を決める生徒・保護者が多く見受けられるようになりました。入試は目標を達成するための手段であることを強調し、目標である志望校への合格を達成する過程での成長にも期待したいと考えています。また、目標設定の際は大学卒業後の就職にも目を向けさせ、将来何をするために大学等へ進学するのかを考えさせています。特に年内入試では将来のビジョンも問われるので、AIに頼りすぎた上辺だけの志望理由でなく、具体的なビジョンを明確に伝えることができる志望理由書作成に努めてほしいと思います。

高等部 進路指導部長 平川 元喜

中高一貫部

今春の卒業生は中高一貫部となってから最も少ない63名でしたが、61名が進学し、慶應2名、上智1名をはじめ、第一志望への合格が目立ちました。年内入試では担当教員がつきますが、他にも小論文指導担当や、英語外部検定のスコアアップが必要な生徒には、ネイティブの先生方にも活躍いただきました。私も三者面談に加わるなど、これまで以上に進路選択に関わることができ、担任の先生方との情報共有もスムーズに進みました。米国進学に関心があると聞けば、大使館と連絡を取り、本校でミニ説明会を開催しました。しかし後日談として、生徒がイベント前にアリゾナ州立大学とすでにコンタクトを取ったとのことで、先回りしたつもりが結果的には後手に回ってしまい、進路担当の難しさを感じるとともに、無限に広がる進路サポートの楽しさも味わっています。

中高一貫部 進路指導部長 吉川 直樹

東京成徳大学高等学校 2025(令和7)年度 主な合格実績

国公立大学(準大学含む) 21名

千葉 埼玉 信州 茨城 琉球
富山 山梨 宮城教育 北見工業
東京都立 埼玉県立 都留文科
山梨県立 長野県立 国立看護大学校

難関私立大学 118名

早稲田 慶應義塾 上智 東京理科
青山学院 明治 立教 法政 中央
学習院 ICU 立命館

海外進学 1名

アリゾナ州立(アメリカ)

併設の大学・短大 14名

東京成徳大学(12名)

東京成徳短期大学(2名)

(高等部・中高一貫部の合計・浪人含む延べ人数)

高等部・中高一貫部
それぞれの合格実績は
各HPの進路ページを
ご覧ください



高等部



中高一貫部

東京成徳大学深谷高等学校 2025(令和7)年度 主な合格実績

国公立大学 8名

一橋 横浜国立 埼玉県立 茨城
群馬 高崎経済

私立大学 208名

早稲田 上智 東京理科 青山学院
立教 法政 学習院 武蔵 東洋
日本 専修 など

併設の大学・短大 1名

東京成徳大学(1名)
(浪人含む 延べ人数)

東京成徳大学深谷高等学校

2025年度の深谷校卒業生数200名の進路状況は、大学139名、短大7名、専門学校43名、就職6名、浪人・その他5名となり、昨年度と比較して大学進学率が微増する結果となりました。

入試傾向としては、昨年度に引き続き、全体の約8割の生徒が年内入試（総合型・学校推薦型選抜）を希望しています。近年、併願可能な年内入試が増加している背景もあり、年内であっても複数の大学を戦略的に受験するスタイルが定着しつつあります。年内入試の合格には、基礎学力に加え、志望分野への深い理解や早期の自己分析、大学ごとの選抜形式に合わせた個別対策が不可欠です。深谷校では今後も、低学年時からの進路行事を通じた自己分析の支援や、大学リサーチのサポート体制を一層強化し、生徒一人ひとりの第一志望実現を全力でバックアップしていきます。

進路指導部長 木村 哲久

深谷高校の合格実績はHPの
進路ページをご覧ください



2025(令和7)年度 学校法人東京成徳学園 決算概況

法令に基づき、大学等の設置者である学校法人は、当該事業年度における決算関係書類および事業報告書を作成し、これを広く公開することが求められています。本学においては、理事会、評議員会での承認を経て、財務状況ならびに事業報告に関する情報公開を、順次、ホームページに掲載することとしております。

本誌では、誌面の都合上、財務状況の概要を掲げます。

● 東京成徳学園全体の卒業・入学・在籍数

2026年5月1日現在

2025年度 卒業者数	2026年度 入学者数※	在籍学生・生徒・園児の 総数
1,401人	1,603人 (前年比△35人)	5,059人 (前年比+77人)

※編入学を含まず

貸借対照表

(2026年3月31日)

(単位:百万円)

科目	金額
資産の部	
固定資産	39,180
有形固定資産	36,764
特定資産	2,330
その他の固定資産	86
流動資産	8,959
資産の部 合計	48,139
負債の部	
固定負債	2,640
流動負債	1,679
負債の部 合計	4,319
純資産の部	
基本金	57,355
繰越収支差額	△13,535
純資産の部 合計	43,820
負債および純資産の部 合計	48,139

実施した主要事業

- 内部質保証委員会の新設と具体的な実行計画に基づく教育改革を推進
- 100分・14週授業の本格導入と授業改善、教育効果向上、アクティブラーニング充実を推進
- 資格取得支援と生成AI活用などの情報教育の高度化
- 学生調査の刷新、学修支援体制の強化
- 産学連携企画「旅するキャンパス」の実施
- 高等教育教職員へのAI環境整備による教育・業務の高度化を促進
- 海外協定校との連携強化および多様な留学プログラムを推進
- 中高一貫教育・ICT活用教育の実践を展開
- 教育機関連携・地域連携の強化
- 「東京成徳学園創立100周年記念募金」の募集開始

事業活動収支計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
収入	
学生生徒等納付金	3,709
手数料	89
寄付金	23
経常費等補助金	2,165
付随事業収入	17
雑収入	294
教育活動収入計	6,296
支出	
人件費	3,939
教育研究経費	2,157
管理経費	454
徴収不能額等	7
教育活動支出計	6,557
教育活動収支差額	△260
外収支	
収入 教育活動外収入計	19
支出 教育活動外支出計	13
教育活動外収支差額	5
経常収支差額	△255
特別収支	
収入 特別収入計	57
支出 特別支出計	150
特別収支差額	△93
基本金組入前当年度収支差額	△347

(注) 百万円未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。

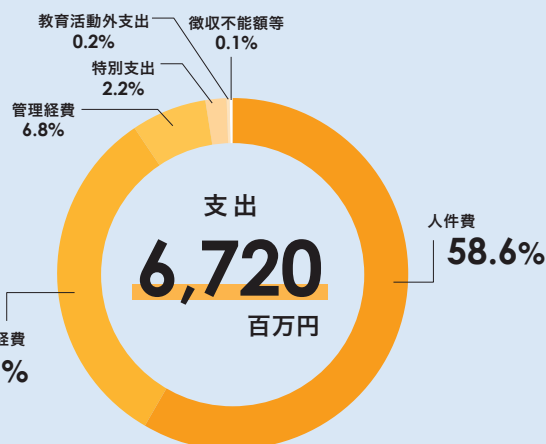
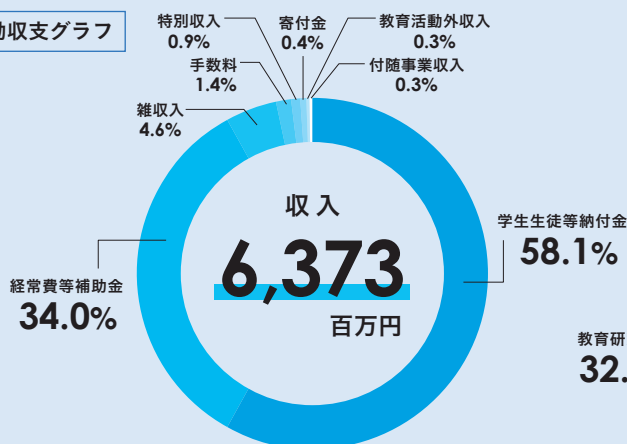
資金収支計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	3,709
手数料収入	89
寄付金収入	40
補助金収入	2,202
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	17
受取利息・配当金収入	19
雑収入	294
借入金等収入	0
前受金収入	655
その他の収入	236
資金収入調整勘定	△929
前年度繰越支払資金	8,194
収入の部 合計	14,528
支出の部	
人件費支出	3,938
教育研究経費支出	1,298
管理経費支出	376
借入金等利息支出	13
借入金等返済支出	243
施設関係支出	103
設備関係支出	166
資産運用支出	0
その他の支出	290
資金支出調整勘定	△406
翌年度繰越支払資金	8,507
支出の部 合計	14,528

事業活動収支グラフ



2025(令和7)年度決算の事業活動収支については人件費、教育研究経費の増加等の影響により、基本金組入前当年度収支差額は347百万円の赤字となりましたが、資金収支については313百万円の資金増加となりました。

詳しくは、東京成徳学園HP
事業計画・事業報告の
「令和7年度事業報告書」で
確認できます。



2026(令和8)年度 事業計画(抜粋)

ビジョン100 重点目標		2026(令和8)年度主要事業の内容
大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	・新留学プログラム、新カリキュラムを計画通りに導入・実施 ・学生からの要望も踏まえつつ、各留学先に対するバランスの取れた学生配置を継続 ・継続してAIの積極的利用による事務の効率化、授業の活性化を行う ・MOS(Microsoft Office Specialist)対策講座を周知して受講者の増加を図る
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	・学生目線の3ポリシー見直しと、その実装化 ・選択科目のインターンシップを再開し、キャリアデザイン科目群をさらに実効性のあるものに改善 ・生成AIを積極的に活用することで、アクティブラーニングの質の向上を目指す ・入学前および初年次教育を振り返って学修内容を再検討し、入学前特別授業、基礎演習授業の充実
	大学の発展につながるグローバル化	・インターンシップとして受け入れる米国人留学生との交流プログラムの質的向上を図る ・国際学部韓国語教育の専任教員として、韓国人専任助教を採用し、教育体制の充実
短期大学	社会ニーズに対応した学科編成	・成果が見られている学外授業・演習授業はさらに内容を精査して継続実施 ・成果発表会の開催方法を、科の行事としての位置づけの見直しとともに改善を図る
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	・100分授業展開の成果を生かし、さらなる活用方法を探り、共有。学修成果の可視化についても検討 ・実習園との就職説明会・懇談会への参加、授業成果発表会等を通して、関係園との関係を深める ・卒業時に学年連絡担当を決める等の方法を工夫し、同窓会組織を若者につなげるようにする
	短期大学の発展につながるグローバル化	・「幼児英会話」に加え改称する「国際比較文化演習」を充実させ、学生の視野を広げる教育を推進 ・「情報機器の操作」「課題研究」等で、ICTやAIを活用した実践を積めるように活用を推進
高等学校・中学校	創造性と チャレンジ精神を涵養し 主体的に学び、考え、 行動する人材を育成	・建学の精神「成徳」への理解と実践(生徒・教職員) ・「いじめ」防止プログラムの適切な運用・研修 ・探究型授業を引き続き継続 ・ミュージカル、歌舞伎鑑賞など引き続き継続 ・生徒が相互のコミュニケーションを図りつつ、連帯して成果を上げるよう指導を継続
	グローバル人材の 育成の強化を図るとともに 社会的評価の獲得を目指して	・多様な留学プログラムを提示し、留学を実現 ・海外提携校の検討 ・ICT環境をさらに充実させるとともに、生成AIなど新しい分野への取り組みを実施
	大学入試の変化等に伴う 教育内容の変化への対応	・大学入試の変化に対応し、対策を実施し、進学実績を伸ばす
深谷高等学校・中学校	机上の学習をリアルな 主体的実体験へ 生徒の能力や学習意欲を 引き出す授業を展開	・先進校視察、授業観察、教員向け大手予備校研修講座受講を継続、生徒による授業アンケートを改善し、組織的な授業改善に取り組む ・「学力の3要素」に基づく授業の一層の改善に努め、ICT教育とe-ラーニングの活用推進を図る ・アクティブラーニング型授業に関する情報共有、公開授業・研修を推進 ・グローバルセンターを中心に、教育活動の改善に努める
	外国語教育の充実・ 外国文化の理解などで グローバル人材育成での 社会的評価の獲得	・英語検定対策講座と2次試験対策個人指導を計画的に開催して指導を徹底し合格者を増やす ・英語によるプレゼンテーション以外にレシテーション大会・スピーチコンテストの実施環境整備 ・JICA(国際協力機構)などと連携した特色ある学習活動の推進 ・先進校視察等による指導力アップと外国文教員と日本人教員による疑似留学体験の一層の充実
	大学入試の変化等に伴う 教育内容の変化への 迅速な対応	・キャリア教育の一層充実。英語4技能向上・資格取得に向けた指導の充実。大学との連携強化 ・産学官連携の「総合的な探究の時間」(SEITOKU探究)の効果的な実践を推進 ・深谷校「進学センター」の講習を見直し、より一層の充実を図る
幼稚園	幼児教育環境の変化に 対応する幼児教育の プログラムの再構築	・保育カリキュラムの再点検と改革に取り組む。特に「外遊び」の工夫を検討。教職員の研修の充実 ・特別プログラムについてより改善を実施する(言語能力・数的能力などについても検討) ・実施している活動の成果の検証、改善
学園	グローバル人材育成のため、 学園全体の教育環境を 重点的に整備する	・留学・研修プログラムの選択肢拡充(派遣先・形態の多様化) ・多様な教職員人材の採用・配置(外国人比率/障害者雇用を含む) ・AIを活用した事務の効率化を継続し、運用を一層推進
ネットワーク	創立100周年記念イベントの 実施および、 「オール東京成徳」としての 学園ネットワークを強化	・100周年記念事業の着実な実施と成果の発信 ・100周年を契機とした「次期ブランド戦略」への接続 ・同窓生・保護者・地域を含むネットワークの活性化

東京成徳大学中学・高等学校がマレーシアの名門大学「UCSI University」との提携協定(MOU)を締結しました

マレーシアを代表する私立大学 UCSI University(本校:クアラルンプール)および同大学の日本展開拠点 UCSI University in Japanと、海外大学進学に関する提携協定(MOU)を締結しました。2026年5月1日に「UCSI University in Japan開校記念式典 兼 提携協定調印式」が行われ、全国18の中学・高等学校との連携の一環として正式に結ばれたものです。今回の提携により、本校の生徒にとって海外大学進学がより現実的で身近な選択肢となります。



成徳幼稚園の園舎が日本建築学会

「建築雑誌 増刊 作品選集 2026」に掲載

建築的にも高く評価された学びの環境、幼稚園としては唯一の紹介

一般社団法人日本建築学会発行の「建築雑誌 増刊 作品選集2026」に成徳幼稚園の園舎が掲載されました。本誌は、国内外から応募された建築作品の中から特に優れた100作品を厳選し紹介する、建築分野を代表する作品集です。2026年版では401作品の応募の中から選出され、幼稚園用途としては本園舎が唯一の掲載となりました。本掲載は、教育環境と地域環境との新しい関係性を提示する建築として高く評価されたものです。

応用心理学部 臨床心理学科 西村昭徳教授が

日本心理学会第89回学術大会で学術大会優秀発表賞を受賞しました

日本心理学会第89回学術大会(2025年9月5日〜7日)で、西村昭徳教授がポスター発表を行った研究(共同研究)が、学術大会優秀発表賞を受賞しました。本研究では20〜80代を対象にWeb調査を実施し、記憶の失敗への「周囲の指摘」と精神的健康(WHO-5)の関係を検討。高齢群(60代以上)では、「さっきも同じ話をした」と言われることや指摘後に不安になることが、精神的健康の低さに関連することがわかりました。



●2025年度卒業式の様子



教員免許状を授与される短期大学卒業生



学位記を手にする子ども学部卒業生と先生



先輩から引き継いだガウンを着る国際学部卒業生

読者
アンケートの
お願い



「TOKYO SEITOKU NOW」をご覧ください、誠にありがとうございます。

今後のよりよい紙面作りのため、読者アンケートを実施しております。

皆さまの感想やご意見をぜひお聞かせください。

※お寄せいただいた個人情報は、今後の広報誌作成の参考に利用するものであり、それ以外の目的で使用するものではありません。

ご回答は
こちらから>>>



役員・評議員の改選

2026(令和8)年3月および5月に開催された学園理事会・評議員会において、理事・監事・評議員の退任に伴う選任が行われ、下表のとおり決定しました。

理事会

(注)選任区分順、※学外理事

役 職	氏 名	現 職
理 事 長	木 内 秀 樹	短期大学長、中学・高等学校長、幼稚園長
副 理 事 長	木 内 雄 太	法人本部長、法人本部経営企画部長、中学校・高等学校教諭、幼稚園副園長
理 事	吉 田 富二雄	大学長
理 事	青 木 孝 夫	深谷中学・高等学校長
理 事	前 田 雅 英	東京都立大学名誉教授、東京都立大学法科大学院客員教授※
理 事	青 柳 晴 久	赤城印刷株式会社代表取締役※
監 事	石 山 賢	前 法人事務局長
監 事	戸 田 裕 二	海光電業株式会社取締役常務執行役員

評議員会

役 職	氏 名	現 職
評 議 員	関 博 光	法人事務局長
評 議 員	小 林 雅 央	大学事務局長、短期大学事務局長
評 議 員	藪 崎 精 克	学園後援会長、株式会社藪崎工務店代表取締役
評 議 員	柳 澤 裕	三菱UFJ証券ホールディングス株式会社取締役
評 議 員	津 島 泰 雄	津島歯科医院長
評 議 員	木 内 万 里 夫	Mario Kiuchi & Associates(株)代表取締役、グロービス経営大学院大学教授
評 議 員	飯 田 秀 郷	はる総合法律事務所代表パートナー



3月に退任した石川前理事



6月に退任した黒崎前監事

〔就任〕

理事 青木 孝夫

埼玉県立高校教諭、羽生実業高等学校教頭、皆野高等学校長を歴任。埼玉県教育局県立学校部県立学校人事課長、総合教育センター所長、教育局県立学校部長、十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科特別任用教授を経て、2026年より現職。

監事 戸田 裕二

慶應義塾大学法学部卒業。住友銀行(現三井住友銀行)で融資課長、調査役補佐等を歴任後、債権回収会社や学校法人で要職を経て、現在は海光電業株式会社取締役常務執行役員。2026年より学園監事。

評議員 飯田 秀郷

1973年司法試験合格。一橋大学法学部卒業。弁護士登録後、飯田特許法律事務所(現 はる総合法律事務所)入所、現在ははる総合法律事務所代表パートナーを務める。2026年より学園評議員。

〔退任〕

理事 石川 薫

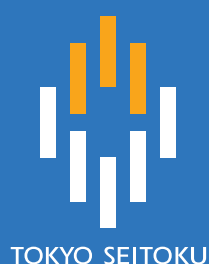
2023年より東京成徳大学深谷中学・高等学校長として着任。同年より学園理事、評議員(～2025年6月)。埼玉県教育長に就任するため、本学園理事を退任。

監事 黒崎 康夫

2005年から2026年まで、3代目理事長 木内四郎兵衛、4代目理事長 木内秀俊、そして現5代目理事長 木内秀樹とともに、長い期間にわたり監事を歴任。

評議員 染谷 一子

東京成徳高等学校卒業生。長年、蕨市議会議員として活動し議長も歴任。2011年より東京成徳大学中学・高等学校同窓会長を務める。2012年より学園評議員(～2025年)。



TOKYO SEITOKU

私たちは約束します。

ブランド・ステートメント

多様性の中で共生し、
新たな自分を見出すとともに、
自らの信念をもって
未来をデザインする人材を育成します。

グローバル化が加速する現代社会では、人種や国籍、宗教、性別、価値観などの多様性を受け入れ、必要な助け合いをしながら生きていく共生を、学問や経験を通して学ぶことが大切です。この学びや経験を通じて、これまでの殻を打ち破る新しい自分の使命や役割を探り当て、確固たる自分自身の信念のもと、自分の未来、自分たちの社会の未来を描き、切り拓いていく人材を、東京成徳では育成します。

学園人事 2025年(令和7年)11月～2026年(令和8年)4月

大学:東京成徳大学、短大:東京成徳短期大学、中学・高校:東京成徳大学中学・高等学校、
深谷中学・高校:東京成徳大学深谷中学・高等学校

※()は前任

学園組織	木内 雄太	法人本部	経営企画部長	龍野 祐介	法人本部	経営企画部課長
	内田 善浩	法人本部	経営企画部課長			
採用	堀内 貴子	大学	国際学部 国際学科 特任准教授	大沼 あかり	中学・高校	専任講師
	崔 智喜	大学	国際学部 国際学科 助教	佐々木 くる美	中学・高校	専任講師
	濱口 佳和	大学	応用心理学部 臨床心理学科 教授	永堀 未紗季	中学・高校	専任講師
	片山 まゆみ	大学	応用心理学部 臨床心理学科 助教	船曳 菜々子	中学・高校	専任講師
	田代 琴美	大学	子ども学部 子ども学科 助教	COOK JACOB	中学・高校	JET・ALT
	鈴木 一正	大学	経営学部 経営学科 特任教授	青木 孝夫	深谷中学・高校	校長
	吉田 実貴人	大学	経営学部 経営学科 特任准教授	櫻井 克彦	深谷中学・高校	中学校教頭・教諭
	吉崎 由佳里	中学・高校	専任講師	中村 愛	深谷中学・高校	教諭
	VILLAZAEZ LEON	中学・高校	専任講師	長田 竹弘	深谷中学・高校	専任講師
	平 凌樹	中学・高校	専任講師	佐々木 孝史	深谷中学・高校	専任講師
	輪島 健太	中学・高校	専任講師	佐藤 颯	深谷中学・高校	専任講師
	LONGTIME SLEEPING CURTIS	中学・高校	専任講師	平田 晃	深谷中学・高校	専任講師
				佐々木 遥	深谷中学・高校	専任講師
	朝倉 有美	中学・高校	専任講師	MACASPAC	深谷中学・高校	専任講師
	佐藤 初那	中学・高校	専任講師	MARIE GRACE		
	森山 ひより	中学・高校	専任講師	堀 三和子	深谷中学・高校	専任講師
	大久保 いつき	中学・高校	専任講師	小暮 江里	深谷中学・高校	専任講師
	渡邊 実鈴	中学・高校	専任講師	土屋 萌	大学・短大	事務局教務課員
	南 亮太郎	中学・高校	専任講師	小堀 成美	中学・高校	事務局
	水越 菜緒	中学・高校	専任講師	佐野 宏樹	中学・高校	事務局
	近藤 舜介	中学・高校	専任講師	島田 茜	中学・高校	事務局
退職	直井 文子	大学	国際学部 国際学科 教授	BAIN MARK	中学・高校	専任講師
	稲垣 久美子	大学	国際学部 国際学科 特任教授	大森 虎之介	中学・高校	専任講師
	徐 映京	大学	国際学部 国際学科 助教	GRUDE JIM	中学・高校	専任講師
	小川 緑	大学	応用心理学部 臨床心理学科 助教	石川 薫	深谷中学・高校	校長
	青木 洋子	大学	子ども学部 子ども学科 助教	五十嵐 俊晴	深谷中学・高校	教諭
	宮澤 俊憲	大学	経営学部 経営学科 教授	江原 良則	深谷中学・高校	教諭
	綿谷 幸則	中学・高校	教諭	HOWES STEPHEN	深谷中学・高校	教諭
	神田 上巳	中学・高校	教諭	菅野 絵美	成徳幼稚園	主任
	岩崎 洋二郎	中学・高校	教諭	渡邊 美弥子	成徳幼稚園	教諭
	中村 千鶴	中学・高校	教諭	井伏 紀文	法人本部	法人事務局総務課員
	井守 雄一	中学・高校	教諭	水越 哲夫	大学・短大	事務局教務課員
	田中 希実	中学・高校	教諭	築嶋 匠	大学・短大	事務局教務課員
	藤原 瞬	中学・高校	専任講師	植原 健人	中学・高校	事務局
	MAHEUX SAMUEL	中学・高校	専任講師	大越 正彦	中学・高校	事務局事務長補佐
就任	根津 克己	大学	応用心理学部 臨床心理学科長・教授	土屋 佳雅里	大学・短大	グローバル教育副センター長
	武井 孝介	大学・短大	就職支援センター長			
昇任	朝比奈 朋子	大学	子ども学部 子ども学科 教授(准教授)	池内 青海	深谷中学・高校	教諭(専任講師)
	川上 武士	中学・高校	教諭(専任講師)	白畑 紅音	成徳幼稚園	主任
	及川 響	中学・高校	教諭(専任講師)	元木 章太	大学・短大	事務局経営企画室長(係長)、企画・IR室課長(係長)
	高橋 清志	中学・高校	教諭(専任講師)	近田 英昭	大学・短大	事務局総務課課長(係長)
	富岡 芽以	中学・高校	教諭(専任講師)	泉川 綾子	大学・短大	事務局学修支援課係長(主任)
	江口 万喜	中学・高校	教諭(専任講師)	杉本 綾	大学・短大	事務局総務課主任(課員)
	稲垣 いつき	深谷中学・高校	教諭(専任講師)	遠藤 聡子	中学・高校	事務局係長(主任)
	重光 希望	法人本部	法人事務局総務課(大学事務局)	八角 理樹	大学・短大	教務課係長(入試広報課係長)
異動	勝賀瀬 純子	大学・短大	キャンパスライフ支援課係長(学修支援課係長)	春日 信平	大学・短大	入試広報課主任(キャンパスライフ支援課主任)
	藤森 大輔	大学・短大	事務局施設課係長	三輪 晋督	大学・短大	事務局経営企画室主任、企画・IR室主任
兼務発令	藤森 大輔	大学・短大	事務局施設課係長	三輪 晋督	大学・短大	事務局経営企画室主任、企画・IR室主任
解職	一谷 幸男	大学	応用心理学部 臨床心理学科長	横山 和彦	深谷中学・高校	教頭

訃報 市村 操一先生(元学園理事・評議員、東京成徳大学名誉教授、元応用心理学部長、元大学院心理学研究科長)

令和8年1月15日ご逝去 享年88

ここに先生のご貢献、ご業績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東京成徳学園の先生は、日々専門の研究に取り組んでいます。
先生方に研究テーマと研究への思いを、お話しいただきました。

大学・短期大学HPにも各教員の紹介を掲載しています。
下記のQRからぜひご覧ください。

「地域産業政策の実現」に向けた 戦略および推進デザインの解明

鈴木 誠二先生 SUZUKI sei-ji

東京成徳大学 経営学部 経営学科 教授

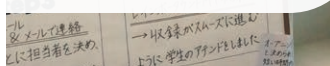
紹介は
こちら



2025年6月に閣議決定された「地方創生2.0基本構想」では、政策の5本柱と各主体が果たす役割が明示されました。特に政策の主體的な推進役である基礎自治体には、地域が抱える社会課題を踏まえ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンの策定と実行が求められています。このような背景を受け、私は現在「地域ビジョンの達成」に向けた取り組みを加速させる戦略や推進デザインの提示に関する研究を行っています。具体的には全国各地の先進的な取り組み事例を調査・研究しています。得られた研究成果は、可能な限り地域へ還元しつつ、研究先に学生が訪問する機会を創出したいと考えています。学生には、現地訪問を通して、地域の魅力や地域課題を自ら感じ学修意欲を高めてほしいと願っています。

今号8ページの特集2のpick up!では、鈴木誠二先生が参画する北区の産業発展支援の取り組みを掲載しています。
こちらもぜひご覧ください。

「地域産業政策の実現」には処方箋のようなマニュアルはなく、地域振興に役立つ地域特有の資源を発見する能力、その資源をビジネス機会と捉え、ビジネスを成立させる能力があれば、誰でも実現可能なものです。学生たちには、いつしか自分らしい心豊かな暮らしができる地域の「創る側」となり、多くの笑顔を創出してほしいと思っています。



2年連続で副塾長を務める次世代産業人材育成プロジェクト「北区担い手みらい塾」での講義風景



「北区担い手みらい塾」にて、やまだ加奈子北区長や産業振興課の方々とのコミュニケーション風景



卒業生をつなぐオンラインコミュニティ 東京成徳 NETWORKを開設しました

2026年の学園創立100周年記念事業の一環として、大学・短大・高校の卒業生同士や、卒業生と教職員・在学生をつなぎ、それぞれが交流できる卒業生オンラインコミュニティ『東京成徳 NETWORK(TS-network)』を開設しました。

『オール東京成徳』としての連携と絆をさらに深め、東京成徳学園のプレゼンス強化と教育内容の充実に取り組むためにも、多くの卒業生からのご参加をお待ちしています。

詳細は
こちら



未来へつなぐメモリアルフォトアート メッセージと写真を募集中!



学園創立100周年を記念して、在学生や卒業生、保護者の方、学校関係者の皆さまからのメッセージと写真を募集しています。お寄せいただいたメッセージ・写真は100周年特設サイトで公開され、写真はフォトモザイクアートとして100周年を記念するさまざまな媒体で展開予定です。

東京成徳での思い出や感謝の気持ちなどのメッセージを添えて特別な1枚を投稿して、思い出深い瞬間を共有しましょう!

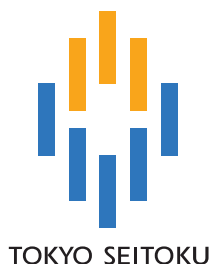
詳細は
こちら



表紙について

今号は、東京都北区の「U-KISS・O-KISS事業」で活動をとにしたチームのメンバーにご協力いただき、対談取材を行いました。本事業は、大学生(U-KISS)と区職員(O-KISS)が協働し、若い視点で北区の魅力を発信するという取り組みです。本学からは取材学生を含め、2名の学生が参加。それぞれ、他大生や区職員とともに結成したチームで、渾身のショートフィルム作品を作り上げています。取材はその内の1チームでしたが、活動を振り返り、思い出に話していただきました。学生と区職員という立場を超えた関係性も垣間見え、活動を通して築いた信頼関係と達成感が写真からも感じられます。





学校法人 東京成徳学園
www.tokyoseitoku.ac.jp



学校法人東京成徳学園は
2026年に創立100周年を迎えました

- 東京成徳大学
- 東京成徳大学大学院
- 東京成徳短期大学

東京キャンパス(十条) 東京都北区十条台1-7-13

TEL 03-3908-4530 URL www.tsu.ac.jp

- 東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 東京都北区豊島8-26-9

TEL 03-3911-2786 URL www.tokyoseitoku.jp/js/

高等部 東京都北区王子6-7-14

TEL 03-3911-5196 URL www.tokyoseitoku.jp/hs/

- 東京成徳大学深谷中学・高等学校

埼玉県深谷市宿根559

TEL (中学) 048-573-1784 URL (中学) www.tsfj.jp/top

(高校) 048-571-1303 (高校) www.tsfh.jp

- 成徳幼稚園

東京都北区豊島8-24-2

TEL 03-3911-6337 URL www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/

- 東京成徳スイミングスクール

東京都北区王子6-7-14

TEL 03-3914-2383 URL www.tokyoseitoku.ac.jp/swimming/

東京成徳学園後援会のご案内

東京成徳学園の使命達成のため、オール東京成徳で尽力しようと幼稚園から大学院まで学園全体の後援組織として、ご賛同いただく会員を募り組織した後援会です。趣旨をご理解いただき、ぜひご参加ください。

入会に関するお問い合わせ

TEL 03-3911-5196 担当 大橋、遠藤(事務)

東京成徳学園後援会 目的および事業

(東京成徳学園後援会会則より)

本会は会員相互の親睦を図り、併せて学園の発展に寄与することを目的とし、次の事業を立案実施する。

1. 学園行事への参加協力。
2. 在学生の研究活動、部活動の助成。
3. 卒業生進路への協力。
4. 会員の親睦会、研修会の開催。

東京成徳学園の“今”を 公式SNSで発信中！

東京成徳学園ではホームページのほか、Instagram、X(旧Twitter)、Facebookからさまざまな情報を発信しています。ぜひお気軽にフォローしてください。

